

## 水の事故を防ぐ

夏になると、毎年多くの人が水遊びや釣り、キャンプなど水辺のレジャーを楽しんでいます。

夏は、1年の中で水の事故が最も多い季節。水の事故を防ぐためには、水辺環境の特徴をよく理解し、水難につながりやすい危険な場所や行為

を知っておくことが重要です。

水の事故で多いのが、水遊びや釣りによるもの。遊びに熱中して、知らず知らずうちに危ないところに行ってしまうことがあります。水遊びや釣りは、危険を伴うことを知っておきましょう。

# 事故を防いで夏を楽しもう

夏に向けて、水遊びや旅行など、さまざまなイベントを計画している人が多いのではないだろうか。楽しみな気持ちが高まる一方で、心配されるのが水の事故や熱中症。今回は、夏に多く発生する事故を防止するためのポイントを紹介しします。



## 子どもや高齢者を水難事故から守る

近年、水路やため池での水難事故が後を絶ちません。用水時期は施設の水量も多く、二度転落すると、子どもや高齢者の力では、はい上がるのが非常に困難です。事故を未然に防ぐために、普段から危険な場所を認識しておくことが大切です。立ち入りを禁止する看板やフェンスがある場所など、危険と思われる場所には近づかないようにしましょう。

また、家族や地域住民による見守りや声がけも重要です。水難事故から大切な命を守りましょう。

### ■宮城県内農業用排水路等における水難事故

年度	宮城県内死亡者数	うち70歳以上	うち10歳未満
令和5年度	2人	0人	0人
令和4年度	5人	3人	1人
令和3年度	3人	1人	1人
令和2年度	2人	1人	0人
令和元年度	0人	0人	0人

## 地域全体で水難防止を呼びかける 西郷地区コミュニティ推進協議会の取り組み

市内には、古くから農業用水を確保するために農業用ため池が数多く点在します。

南方町域内にあるため池のうち、約95%を占める西郷地区。西郷地区コミュニティ推進協議会では、令和2年度から、西郷小学校やPTAなどと連携して、危険啓発看板の設置を進めています。

看板の絵は西郷小の児童が描き、関係団体や地域住民が協力して設置。令和6年6月末現在で、17基の看板を製作しました。児童たちが描いた図画は、地域の皆さんに見てもらえるようにと、西郷公民館にも展示。高橋利典公民館長は「地域住民や関係団体が、自分たちの手で看板を設置することで、身近な危険を知り、安全な地域づくりにつながっている」と話しています。



①②西郷地区で設置している危険啓発看板③フェンスや看板がある水路やため池には立ち入らないようにしてください  
※フェンスや看板の破損などを発見した場合は、市へご連絡ください  
【問い合わせ】産業経済部農林振興課(農地整備係)  
☎ 0220(34)2709

## 服のまま水に落ちたら、落ちた人を見かけたらどうしたらいい? 大切なのは「慌てないこと」

■服のまま水に落ちてしまったら

- 顔を水面に出して呼吸を確保する
- 体勢を上向きにしたまま浮かぶ
- 落ち着いたら救助を求める
- ペットボトルやカバンなど、浮くものを使う

■水に落ちた人を見つけたら

- 119番に通報する、周囲に伝える
- 浮くものを投げ入れる



登米市B&G海洋センターでは毎年、市内小学生を対象に「水辺の安全教室」を開催しています。教室では、着衣泳の実技体験やデジタル教材などによる学習機会を提供。水難事故防止意識の啓発をしています。

水の事故から命を守るためには、水辺にある危険や、万が一のときの対処方法について覚えておくことが大切です。

センターが主催する「カヌー・ローボート教室」では、ライフジャケットの着用方法や落水時の対処法など、水難事故から身を守る安全行動を学ぶことができますので、ぜひご参加ください。

【問い合わせ】登米市B&G海洋センター(中田総合体育館内)  
☎ 0220(34)7302



登米市B&G海洋センター  
指導員  
伊藤 峻さん、上野 智之さん



B&G財団「水辺の安全学習アプリ」は、水辺での危険予知や対策、身を守る方法を15分で学べるデジタルコンテンツです。ぜひ、ご活用ください。

## 水辺で遊ぶときの注意点

- ▶ 一人で行かない
- ▶ 沼や池などでは遊ばない
- ▶ 池や川の土手で、草に覆われているところには近寄らない
- ▶ 流れてきたものの上では遊ばない
- ▶ 水が増えてきたら遊ばない
- ▶ 立ち入り禁止の場所には近寄らない
- ▶ 釣りやレジャーではライフジャケットを身に着ける

